

■ 一般目標 (GIO)

口腔保健において保健指導および予防処置等を行うにあたり，歯科衛生士として必要な基礎事項を学ぶ。特に第1学年では，う蝕と歯周病を中心とした口腔疾患の予防法の概要を理解し，口腔領域の健康づくりの基礎的な知識を習得する。

■ 到達目標 (SBOs)

- ・ 歯・口腔の発育変化と機能を説明できる。
- ・ 歯・口腔の環境を説明できる。
- ・ 口腔清掃の基礎とブラッシング法や歯磨剤を説明できる。
- ・ う蝕の基礎と予防法，指標を説明できる。
- ・ 歯周疾患の基礎と予防法，指標を説明できる。
- ・ その他の歯科疾患の基礎と予防法，指標を説明できる。

■ 教科書：歯科衛生士テキスト口腔衛生学（学建書院）第4版

■ 参考書：必要に応じて講義内にて指示する。

■ 授業時間：火曜日 15：00～16：50

■ オフィスアワー：田中 秀樹 月～木曜日 17：00～18：00 (tanaka.hideki@nihon-u.ac.jp)
中井久美子 月～木曜日 17：00～18：00 (nakai.kumiko10@nihon-u.ac.jp)
尾崎 愛美 月～水曜日 17：00～18：00 (ozaki.manami@nihon-u.ac.jp)
加藤 伸依 授業終了後

■ 授業の方法：スライドを用いた講義を主とする。

■ 準備学習・（予習・復習）

準備学習時間：予習を十分に行い，当日の学修到達目標を理解しておくこと。

■ 成績評価方法：平常試験（30％），後期終了後の定期試験（70％）で評価する。

■ 注意事項：教科書を持参すること。なお，平常試験を3回実施する。

■ 実務経験：田中秀樹：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から，歯科疾患の第1次，第2次，第3次予防の実際を説明する。
中井久美子：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から，歯科疾患の第1次，第2次，第3次予防の実際を説明する。
尾崎愛美：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から，歯科疾患の第1次，第2次，第3次予防の実際を説明する。

■ 予定表

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第 10・11 回 10 月 7 日 尾崎 愛美	1. 歯周疾患の 予防-1 1) 基礎知識と疫学 2) 分類 (教) pp. 73-78	・ 歯周疾患の有病状況を中心に疫学的な知見について知る。 ・ 歯周疾患の一般的な分類方法を理解し、歯肉病変、歯周炎などの症状について知る。
第 12・13 回 10 月 14 日 尾崎 愛美	2. 歯周疾患の 予防-2 1) 発生のメカニズム 2) 発生要因 3) 進行と転帰 (教) pp. 78-83	・ 歯周疾患の発生における歯周病原性細菌の特徴について知る。 ・ 歯周疾患の発生要因とそれらの影響の仕方について理解する。 ・ 歯肉炎と歯周炎の進行と転帰の自然史について知る。
第 14・15 回 10 月 21 日 尾崎 愛美	3. 歯周疾患の 予防-3 1) 歯周疾患と全身疾患 2) 予防の段階と予防方法 (教) pp. 83-86	・ 歯周疾患と全身疾患の関係について理解する。 ・ 歯周疾患の進行に応じた 3 つの予防の段階について理解し、各段階における具体的な対策について知る。
第 16・17 回 10 月 28 日 尾崎 愛美	4. その他の歯科疾患と指標 1 1) 歯周疾患に関する指標 (教) pp. 107-123	・ 歯肉炎や歯周炎の指標について理解する。
第 18・19 回 11 月 4 日 尾崎 愛美	5. 平常試験および解説	・ 第 10 回～第 17 回の確認のための小テストを行う。
第 20・21 回 11 月 11 日 中井 久美子	6. その他の歯科疾患と指標 2 1) 口臭の予防 不正咬合の指標 2) 歯科疾患の疫学	・ 口臭、不正咬合の基礎知識を理解する。 ・ 疫学の目的、方法を理解し歯科疾患に対する疫学の重要性を知る。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
	3) う蝕に関する指標 (教) pp. 87-106	
第 22・23 回 11 月 18 日 加藤 伸依	7. 口腔清掃 1) 口腔清掃の意義 2) 口腔清掃の分類 3) 口腔清掃用具 4) 歯磨剤 5) ブラッシング法 (教) pp. 27-42	・ 口腔清掃の意義について理解する。 ・ 口腔清掃法の基本的な分類と概念について学ぶ。 ・ 歯ブラシの構造と、その他の補助的清掃器具について学ぶ。 ・ 歯磨剤の基本的な事項について理解する。 ・ 各種ブラッシング方法および補助刷掃法の意義や基本的な方法について理解する。
第 24・25 回 12 月 2 日 中井 久美子	8. フッ化物-1 1) フッ素の知識 2) フッ素の毒性 3) フッ化物の作用機序 4) フッ化物の計算 (教) pp. 55-72	・ 日常生活の中で存在するフッ素について学ぶ。 ・ フッ化物を応用するにあたり必要な、フッ素の毒性について局所的フッ化物の応用法の種類とその作用機序について学ぶ。
第 26・27 回 12 月 9 日 田中 秀樹	9. フッ化物-2 1) 局所・全身的フッ化物応用法 2) 齲蝕予防効果 3) フッ素症の指標 (教) pp. 55-72	・ う蝕の特異的予防法として、世界中で一番応用されているフッ素とう蝕の関係について学ぶ。 ・ フッ素症の指標を理解する。
第 28 回 1 月 20 日 田中 秀樹	10. 復習および平常試験	・ 第 20 回～第 27 回の講義の復習および確認のための小テストを行う。